

終着駅効果と地域資源活用による

地域活性化戦略



平成28年3月

令和4年12月一部改訂

湯前町

はじめに

本町では、進学・就職を機に若者たちのほとんどが町外へ流出し、本町へのUターンも限られています。それに伴い出生数の低下等が見られ、このまま若者の流出が続けば、町の活力は失われ、町そのものの存続も危ぶまれます。

この状況を打破するために、「若者や子育て世代などが魅力を感じるまちづくり」を推進してきました。

本町には、全国的にも人気があるローカル鉄道の終着駅があり、駅周辺には「まんが美術館」や「まんが図書館」といった特色ある施設もあります。また、町内に点在する数々の歴史文化財は、平成27年4月に日本遺産群として認定されました。さらには、豊かな自然の中で育まれた新鮮な農林産物や、温泉、宿泊施設などの地域資源も数多くあります。

これらの地域資源を最大限に活用して交流人口を増やすことにより、若者が魅力を感じる雇用の場を創出することや、子育て世代をはじめとする都市部の若者の移住を促すことに真剣に取り組んできました。

本町では平成27年3月に「終着駅効果と地域資源活用による地域活性化戦略」を策定し、計画期間を平成32年度（令和2年度）までの5年間としていましたが、令和2年7月豪雨の被災による、くま川鉄道および肥薩線の運行休止や、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を考慮し計画を一時中断しておりました。

今般、くま川鉄道の令和7年度中の全線復旧のめどがたちましたので、その全線復旧に向けて、環境の変化はありますが本戦略については、計画期間を次期戦略策定まで延長することといたしました。

延長した本戦略の内容を、住民のみなさまに今後のまちづくりの指針として共有していただき、実践者のひとりとしてご協力、ご活躍いただけることを切にご期待申し上げ、本戦略延長にあたってのご挨拶といたします。

令和4年12月

湯前町長 長谷 和人

【目 次】

| | |
|---------------------------------|----|
| 第1部 序 論 | 1 |
| 第1章 地域活性化戦略策定の趣旨と目的 | 1 |
| 第2章 地域活性化戦略策定にあたって | 2 |
| 第3章 地域活性化戦略の概要 | 3 |
| 第1節 地域活性化戦略の位置づけ | 3 |
| 第2節 地域活性化戦略の対象期間 | 5 |
| 第3節 地域活性化戦略策定に向けた基本的な考え方 | 6 |
| 第4節 地域活性化戦略の理念と基本方針 | 7 |
| 第5節 地域活性化戦略の体系化 | 8 |
| 第2部 地域活性化戦略 | 15 |
| 第1章 地域活性化戦略の構成 | 15 |
| 第2章 地域資源を活かした賑わいのあるまちづくり | 16 |
| 第1節 湯前駅前再整備による賑わいのあるまちづくり | 16 |
| 第2節 まんが美術館を核とする賑わいのあるまちづくり | 19 |
| 第3節 郷土文化を核とする賑わいのあるまちづくり | 21 |
| 第4節 食文化を核とする賑わいのあるまちづくり | 22 |
| 第3章 暮らしを支える産業と持続可能な雇用を生み出すまちづくり | 24 |
| 第1節 農林業の高度化・多様化支援 | 24 |
| 第2節 地域資源を活かした着地型観光産業の推進 | 26 |
| 第3節 地域資源を活かした物産流通促進事業 | 29 |
| 第4章 若者が暮らしやすいまちづくり | 31 |
| 第1節 若者が安心して暮らしていける住まいづくり | 31 |
| 第2節 子どもを安心して生み育てられるまちづくり | 33 |
| 第5章 情報が行き交うまちづくり | 35 |
| 第1節 町外への情報発信機能の充実 | 35 |
| 第2節 町内における情報発信機能の充実 | 38 |
| 第6章 まちづくりを担う人づくり・仕組みづくり | 42 |
| 第1節 まちづくりを担う人づくり | 42 |

| | |
|--------------------|----|
| 第2節 まちづくりを担う仕組みづくり | 46 |
| 第7章 事業の年次計画 | 48 |
| 第1節 事業の年次計画 | 48 |

第1部 序 論

第1章 地域活性化戦略策定の趣旨と目的

湯前町では、「マイ ホーム タウン ゆのまえ～人と自然と歴史が調和し、未来を創造する町～」を目標として、令和3年度から「湯前町総合計画（第6次）」に基づき、本町に住む一人ひとりが夢と誇りを抱き、安心して生き活きと暮らし、「ゆのまえが好き」と住んでいる住民の方々がそう思う笑顔の似合うまちづくりを推進してきました。これまでも、美しい自然環境はもちろんの事、「まんが美術館」や「湯前駅」、「城泉寺」、「八勝寺」、「相良三十三観音」などの重要な歴史遺産を活かしたまちづくりを推進し、「ひと」と「もの」の交流を促進しているところです。しかし、本町では、高齢化の急速な進行とともに、進学・就職を機に若者たちの町外への流出が続いており、このまま若者の流出が続けば町の活力は失われ、町そのものの存在も危ぶまれる状況にあると言えます。この状況を打破するためには、若者が魅力を感じるまちづくりを推進し、町の賑わいと若者を中心とした新たな雇用を生み出すことにより、流出人口の抑制並びに流入人口の増大を図っていくことが急務となっています。

我が国においては、平成26年11月に、「まち・ひと・しごと創生法」が施行されるとともに、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」、及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定され、大都市圏への人口集中や少子化に伴う地方の人口減少に歯止めをかけ、地域に活力を取り戻すための指針が示されました。こうした国の政策に基づき、本町においても、「湯前町人口ビジョン」並びに「湯前町総合戦略」を平成27年10月に策定し、令和2年3月に「湯前町人口ビジョン」の改訂並びに「第2期湯前町総合戦略」を策定して、地方創生に向け継続した取り組みを行っています。令和42年には1,159人まで減少するといわれる人口減少予測を1,572人に止めるという目標を掲げ、そのための総合戦略として、「力強い産業としごと創生」、「誇れる・選ばれるまち創生」、「未来を担う若い世代の希望創生」の3つの基本目標のもと、新たなまちづくりを推進しているところです。

本地域活性化戦略は、このような背景のもと、特に急務となっている若者に魅力のあるまちづくりを推進するため、本町の最大の魅力とも言えるローカル鉄道の終着駅効果や全国的にも珍しい有名漫画家の企画展等が開催される「まんが美術館」・「まんが図書館」、さらには、日本遺産に認定された歴史・文化遺産を最大限に活用し、若者にとって魅力ある雇用の場を創出し、若者の移住・定住を促進するための方策、並びにその推進体制を整備・強化していくことを目的としています。

第2章 地域活性化戦略策定にあたって

まちづくりを推進していくためには、地域住民の理解や協力が不可欠な要素となります。これからのまちづくりにおいては、むしろ、行政主体ではなく、地域住民の主体的参画のもとに推進していくことが望まれます。また、各種事業を具体的に展開・運用していく上でも、行政の力には限界があり、住民主導で実践していくことが不可欠となってきました。このため、本地域活性化戦略の策定にあたっては、トップダウン方式ではなく、計画当初から町民の意見や思い、考えをできるだけ重視するとともに、戦略策定に自らが参画することによって、まちづくりへの意欲・関心を高めていくため、町民参画によるボトムアップ方式によって策定することとしました。また、行政職員の関心や意欲を高めていくため、先進地研修や関連部署のヒアリングを実施するなど、官民一体となって取り組んでまいりました。

本戦略策定にあたり、具体的には、以下のような作業を実施しながら策定しました。

① 地域活性化戦略検討委員会の設置と検討

地域住民に加え、移住希望者や学識経験者など町外の委員も加わり、5回の検討委員会を開催し、まちづくりのための課題提起や戦略策定案についての意見交換を行いました。

② 住民主体によるワークショップの開催

若者から高齢者まで幅広い層の町民に参加していただき、町民自ら本町に内在する課題を明らかにするとともに、その解決策に向けての提案まで、計4回のワークショップを開催しました。

③ 住民向け講演会、観光セミナーの開催

町民のまちづくりへの関心や参画意欲を醸成していくため、日本全国から関連分野に精通した専門家を招聘し、住民向け講演会を2回開催するとともに、本戦略策定に不可欠な要素である観光分野への意識醸成のため、観光セミナーを3回開催しました。

④ 移住・交流&地域おこしフェアへの参加

東京で開催された「移住・交流&地域おこしフェア」へ参加し、関東地方の在住者を対象に、湯前の魅力を周知するとともに、移住希望者、地域おこし協力隊の募集活動を行いました。

⑤ 先進地研修の実施

商工会や観光物産協会など地域関連団体とともに、長崎県壱岐市を先進地事例として視察し、具体的な観光振興方策や組織体制、地域おこし協力隊の活動など、本戦略策定のための情報収集を行いました。

⑥ 農林産物を活用したイベントの開催

地域資源の一つである農林産物の活用並びに町外への周知のため、町内においては苺祭りを活用し、レシピ開発などを実施し、町外においては東京で湯前の食を紹介するイベントを開催しました。

⑦ ヒアリング調査

地元事業者や役場内関連部署の意識醸成を兼ねながら、現状調査・分析を行い、本戦略策定に必要な情報を収集しました。

第3章 地域活性化戦略の概要

第1節 地域活性化戦略の位置づけ

第6次湯前町総合計画では、将来像の実現に向け、

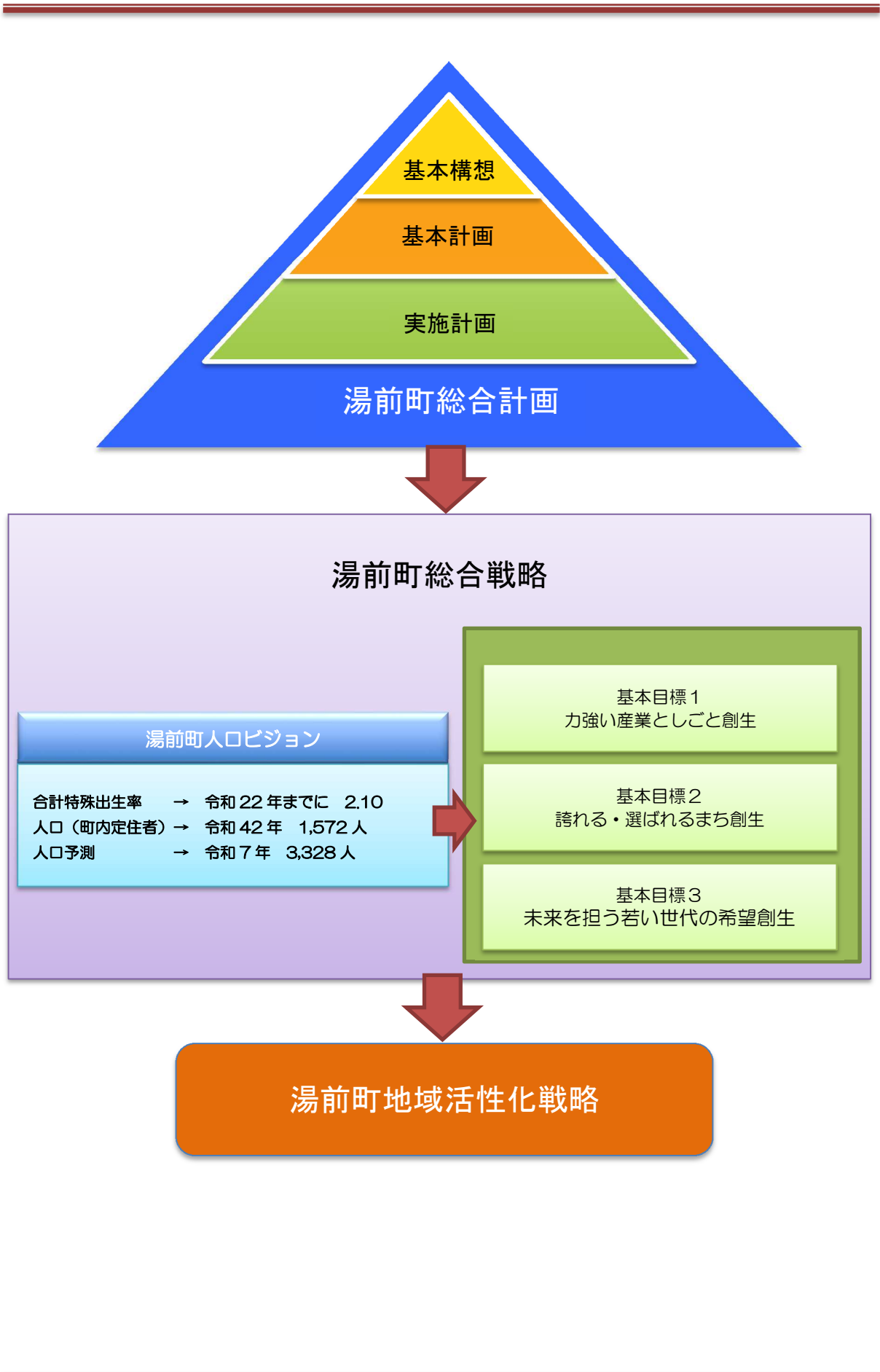
- 安全で安心して生活を送ることができる。暮らしやすいまちづくり
- 美しい自然環境、豊かな歴史などの地域資源を生かしたまちづくり
- 未来につなげる人や資源を最大限に活用する持続可能なまちづくり

を基本構想の基本姿勢として、次の5つの政策分野別基本方針に従いつつ、本町の発展にむけた諸施策を町民との協働により推進するものとしています。

- ① 「命を守る安心安全のまちづくり」
- ② 「次世代につなぐ持続可能な産業づくり」
- ③ 「ずっと住み続けられる安らぎの住環境づくり」
- ④ 「ささえ愛で心温まる福祉づくり」
- ⑤ 「地域をつなぐ人づくり」
- ⑥ 「みんなで描き育むまちづくり」

また、令和2年3月に策定された「第2期湯前町総合戦略」は、「湯前町総合計画」の実現に向け、「まち・ひと・しごと創生法」に則り、同年に改訂された「湯前町人口ビジョン」で示された本町の人口の現状と将来展望を踏まえ、本町の人口減少を食い止め、地域活性化を目指すための実施計画的な位置づけで策定されました。そのため、本総合戦略では総合計画の6つの政策分野別基本方針を基盤に据えながらも、国の総合戦略と関連が深く重要と考えられるものについて、3つの基本目標を掲げ策定しています。

本地域活性化戦略は、この「湯前町総合計画」、並びに「湯前町総合戦略」のより具体的な実践に向け、特に、本町の最大の魅力である終着駅効果を最大限に生み出すための駅周辺開発・整備、並びに特色ある地域資源を最大限に活用することで、若者にとって魅力ある雇用の場を創出し、若者の移住・定住を促進する道筋を明らかにしていくものと位置づけています。



第2節 地域活性化戦略の対象期間

本地域活性化戦略は、「湯前町総合計画」、並びに「湯前町総合戦略」と密接に関係しているため、戦略に基づく計画対象期間を、平成28年度から平成32年度の5年間として策定を行います。また、次期計画の策定までは計画対象期間を延長できることとします。

| H27年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |
|----------------|-------|-------|-------|----------------|----------------|------|------|------|------|------|
| ← 第5次湯前町総合計画 → | | | | | ← 第6次湯前町総合計画 → | | | | | |
| ← 湯前町総合戦略 → | | | | ← 第2期湯前町総合戦略 → | | | | | | |
| ← 地域活性化戦略 → | | | | | ← 延長 → | | | | | |

第3節 地域活性化戦略策定に向けた基本的な考え方

本町では、これまで「湯前町総合計画」に基づき、実施計画を策定し、各種施策の実現に向けて各種事業を推進しているところですが、社会や本町を取り巻く環境の変化など様々な理由から、十分な施策展開に至っていない課題もあるのが実情です。本戦略では、改めてこれまでの現状や課題を分析・整理した上で、特に、終着駅効果を最大限に生み出すとともに、特色ある地域資源を最大限に活用し、若者にとって魅力ある雇用の場を創出し、若者の移住・定住を促進する道筋を明らかにしていくという視点から、「湯前町総合計画」、並びに「湯前町総合戦略」の着実な施策展開が実現できるよう、以下の4点を戦略立案に向けた基本的な考え方としています。

① 実行性のある戦略の策定

本町が有する地域資源（人、物、金、情報）を踏まえ、戦略の実現性や成果の視点から、理想像ではなく実行性を担保できる施策・事業などを優先的かつ集中的に取り組むことができるよう本戦略の策定を行っていきます。

② 柔軟性のある戦略の策定

都市部のみならず地方においても、社会を取り巻く環境は将来的な姿が見えないほど日々変化しています。このような時代においては、将来的町民ニーズの変化や社会環境の変化によって計画された施策や事業の重要性が低下したり、逆に計画当初では想定できなかったような施策が必要になることも想定されます。これらの変化に十分対応できるよう計画に柔軟性を持たせ、必要に応じて施策や事業の見直しを図ることができるよう柔軟な戦略を策定していきます。

③ 地域個性の発揮できる戦略の策定

他地域においても、様々なまちづくりのための施策や事業が展開されていますが、他の成功事例を本町の施策や事業にそのまま取り入れても成功するとは限りません。本町には、本町としての固有の個性や特性があり、そこに居住する住民にもまた個性や特性があります。本戦略では、他地域の先進事例を参考にしながらも、本町としての地域個性が有効に発揮できるよう、地域特性を十分に考慮しながら、個性あふれる戦略策定に努めていきます。

④ 行政・町民協働の視点に立った戦略の策定

少子高齢化の進行や住民ニーズの多様化にともない、新たな公共サービスへのニーズが高まる一方、厳しい財政状況や人的不足から、従来の仕組みだけでは対応が困難になってきていることも事実です。本戦略では、行政がすべて担うという考え方を見直し、住民や地域事業者、住民団体など地域が一体となって行政と協働し目的の実現を図っていくことを目標にして戦略を策定しています。

第4節 地域活性化戦略の理念と基本方針

本町は、美しい緑豊かな自然あふれる環境に加え、くま川鉄道の終着駅としての魅力や寺社仏閣など独特の歴史文化遺産、さらには、「まんが美術館」、「まんが図書館」といった多様かつ豊富な地域資源に恵まれた地域といえます。さまざまな地域課題を解決し、今後のまちづくりを推進していくためには、このような多彩で魅力ある地域資源を最大限に活かし、地域の新たな活力を生み出していくことが不可欠です。

そのためには、町民一人ひとりが自分の生まれ育った郷土を愛する心を育むとともに、まちづくりの主役であるという自覚をもって、共に支えあいながら地域を変えていく協働の精神や取り組みが必要になってきます。また、豊富な地域資源をまちづくりに活かしていくためには、「人と人」、「人と物」、「物と物」といった個別の地域資源を有機的に結びつけ最大限にその効果や魅力を引き出す仕組みづくりが重要となってきます。

その結果として、令和3年度に策定された「湯前町総合計画」の将来像である、「マイホームタウンゆのまえ～人と自然と歴史が調和し、未来を創造する町」の具現化が可能となり、湯前を訪れた方々が湯前に来てよかったなと思え、さらには、町民の幸せと豊かさにつながるまちづくりが実現できるものと考えています。

本戦略策定に当たっては、このような視点に立ち、「訪れてみたいまち、暮らしてみたいまち 湯前」を戦略策定の基本理念として掲げ、「町民と町民」、「町民と行政」、「湯前町と町外」がつながりあい、一体となってまちづくりを推進していくことができるような、また、本町が有するさまざまな地域資源をつなげあい、一体化することにより、さらに地域資源としての価値を高め、本町の発展に寄与できるような戦略立案を本計画の基本とします。

このため、以下に示す3つの考え方を、戦略策定の基本方針とします。

基本理念

訪れてみたいまち、暮らしてみたいまち 湯前

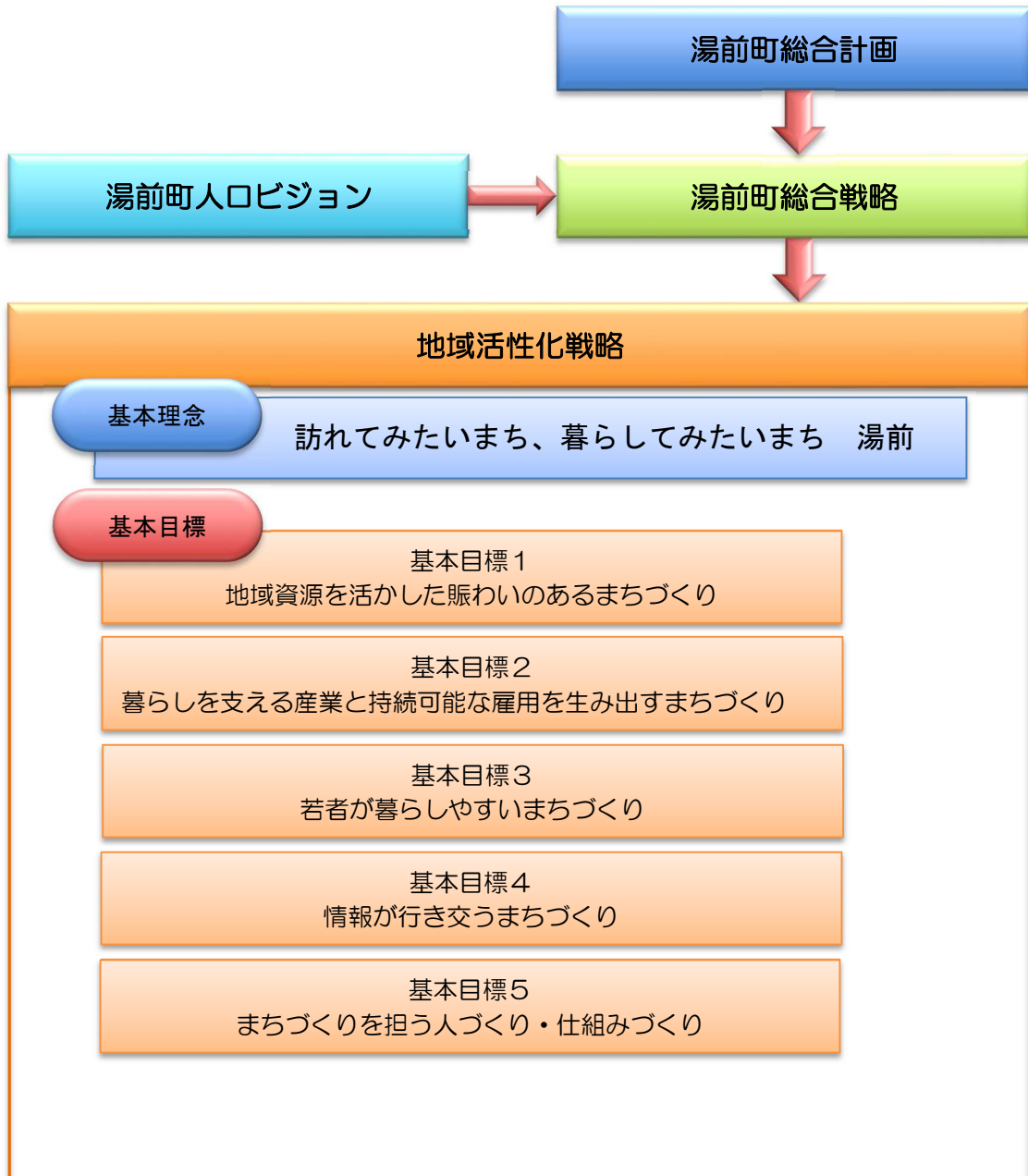
基本方針

- ★ 今ある地域資源を有機的に結びつけ最大限に活かしたまちづくりを推進します。
- ★ 町民の幸せと豊かさにつながるまちづくりを推進します。
- ★ 訪れた方々が湯前に来てよかったと思えるまちづくりを推進します。

第5節 地域活性化戦略の体系化

5. 1 地域活性化戦略施策大綱

本戦略の基本理念である、「訪れてみたいまち、暮らしてみたいまち 湯前」の実現に向け、「湯前町総合計画」ならびに「湯前町総合戦略」との整合性を担保しつつ、5つの基本目標を定め、町内のさまざまな主体が、つながりあい、支えあいながら、賑わいのある湯前をめざしていきます。



5. 2 基本目標と関連する施策事業

基本目標 1

地域資源を活かした賑わいのあるまちづくり



戦略ビジョン

湯前町の魅力を最大に引き出すためには、終着駅としての湯前駅舎を中心とする界隈にさまざまな地域資源を活用し、これまで以上の賑わいを復活させることが重要となります。このため、各種事業を展開していく上で必要となる施設等の利用改善を図るとともに、本町が有する地域資源を最大限に活用していくための仕組みづくりをめざします。

- 湯前駅前再整備による賑わいのあるまちづくり
- まんが美術館を核とする賑わいのあるまちづくり
- 郷土文化を核とする賑わいのあるまちづくり
- 食文化を核とする賑わいのあるまちづくり

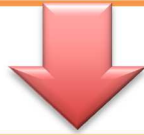


施策事業

- 湯前駅前再整備による賑わいのあるまちづくり
 - 湯～とびあ販売拡大事業
 - スモールハウス群整備事業
 - 全天候型レールウイング改修整備事業
 - まんが美術館再整備事業
- まんが美術館を核とする賑わいのあるまちづくり
 - まんが図書館利用促進事業
 - まんが美術館活用事業
 - まんが・アニメグッズ販売促進事業
- 郷土文化を核とする賑わいのあるまちづくり
 - 郷土文化展示・体験施設活用事業
- 食文化を核とする賑わいのあるまちづくり
 - レールダイニング促進事業

基本目標 2

暮らしを支える産業と持続可能な雇用を生み出すまちづくり



戦略ビジョン

■ 農林業の高度化・多様化支援

湯前町の基幹産業は、何と云っても農林業です。将来的にも後継者を維持していくことが望まれます。このため、若い世代の参入が少しでも可能になるよう、新たな農林業経営の開発や農林業就業希望者のための支援環境の構築をめざします。

■ 地域資源を活かした着地型観光産業の推進

湯前町は、ローカル鉄道の終着駅を有するという貴重な地域資源をもっています。この地域資源を有効に活用するためには、通過型観光ではなく、着地型観光をめざしていくことが不可欠です。このため、湯前町が有するさまざまな地域資源を最大限に活用した着地型観光産業の創出に努めていきます。

■ 地域資源を活かした物産流通促進事業

湯前町の生産物を広く町外に知らせ、湯前を訪れた方たちの購買意欲を高めていくためには、さまざまな広報活動とともに、町外からも購入できる環境を整えておくことが不可欠です。このため、インターネット環境を活用した販売促進環境の整備に努めていきます。



施策事業

■ 農林業の高度化・多様化支援

- 農林業経営高度化促進事業
- 農林業就業希望者支援事業

■ 地域資源を活かした着地型観光産業の推進

- 歴史文化利活用着地型観光事業
- 自然環境利活用着地型観光事業
- 農林産物利活用着地型観光事業
- 町内周遊観光交通支援事業

■ 地域資源を活かした物産流通促進事業

- eコマース推進事業

基本目標 3

若者が暮らしやすいまちづくり



戦略ビジョン

■ 若者が安心して暮らしていける住まいづくり

若者が湯前に定住しようと思うためには、働く場所とともに、暮らしやすい住環境を整備していくことが望めます。このため、若者志向のデザインを取り入れた住環境の整備をめざしていきます。

■ 子どもを安心して生み育てられるまちづくり

若い夫婦にとって、子育てに適した町の環境が望めます。その一つに子どもを見守ることができ、安心して屋外で遊ばせる環境が必要です。親子で安心・安全を確保しながら、自由に交流できる空間の整備をめざします。



施策事業

■ 若者が安心して暮らしていける住まいづくり

- 若者向け単身者住宅建設事業
- 子育て世帯向け住宅建設事業

■ 子どもを安心して生み育てられるまちづくり

- 親子ふれあい環境整備事業
- まんがカフェ整備事業

基本目標 4

情報が行き交うまちづくり



戦略ビジョン

■ 町外への情報発信機能の充実

湯前の流入人口を拡大していくため湯前の魅力を効果的に発信していくとともに、湯前を訪れる方の利便性向上に努めていきます。

■ 町内における情報発信機能の充実

湯前を訪れた方たちが、安心して湯前を回遊できたり、湯前に関する情報を容易に獲得できるような情報提供環境の充実に努めていきます。



施策事業

■ 町外への情報発信機能の充実

- 近隣主要 JR 駅での広報促進事業
- 高速道路 IC&PA での広報促進事業
- SNS 情報発信機能高度化促進事業
- 観光アプリ構築整備事業
- プロモーション映像制作整備事業

■ 町内における情報発信機能の充実

- 湯前観光案内所整備事業
- 駅舎内湯前ギャラリー整備事業
- 湯前駅前観光サインージ端末整備事業
- 町内サイン計画・案内板整備事業
- Wi-Fi 無線環境整備事業

基本目標 5

まちづくりを担う人づくり・仕組みづくり



戦略ビジョン

■ まちづくりを担う人づくり

今後、本地域活性化戦略にもとづき、各種事業を持続的に展開していくためには、その事業を担っていく人材が不可欠です。そのため、各種事業の展開と並行しながら、必要となる人材の育成に努め、しごとと雇用の創出につなげていきます。

■ まちづくりを担う仕組みづくり

人材育成とともに、各種事業を持続的に展開していくためには、官民一体となって取り組んでいくことが不可欠です。このため、住民、各種団体、行政など各分野の人たちが参加できる新たな組織体制を整備していきます。



施策事業

■ まちづくりを担う人づくり

- 地域情報発信人材育成事業
- 観光案内人育成事業
- 着地型観光推進人材育成事業
- 創業希望者支援事業
- eコマース推進人材育成事業

■ まちづくりを担う仕組みづくり

- まちづくり組織体制強化事業
- 観光案内人協会等整備事業

第2部 地域活性化戦略

第1章 地域活性化戦略の構成

本地域活性化戦略では、「湯前町総合計画」並びに「湯前町総合戦略」との整合性を担保しつつ、「訪れてみたいまち、暮らしてみたいまち 湯前」を基本理念として、3つの基本方針のもと、5つの基本目標を定めました。その実現に向けて、13の戦略ビジョン並びに32の施策事業によって構成します。

なお、国は、市町村に対して政策分野ごとに具体的な施策を策定し、各施策の効果を客観的に検証できるようにするため、施策ごとに客観的な重要業績評価指標(KPI)を設定することを求めています。このため、基本目標ごとに、実現すべき成果に係る指標(目標値)を示し、検証・改善を図るためのPDCAサイクルの運用が可能になるようにしています。

各基本目標に沿った戦略内容については、それぞれ次のような構成になっています。

| |
|---|
| 戦略ビジョン |
| 基本目標の実現に向けた戦略ビジョンを示しています。 |
| 施策体系 |
| 各基本目標の中で定める戦略ビジョンと具体的な施策事業の方向性を体系的に示しています。 |
| 施策を取り巻く環境 |
| 各種施策を取り組むにあたって、現状や社会的動向などを示しています。 |
| 解決すべき課題 |
| 現状を踏まえ、解決すべき、取り組むべき課題を示しています。 |
| 施策事業と事業主体 |
| 現状と課題を踏まえ、基本目標や戦略ビジョンを実現するための各種施策事業内容を具体的に示しています。 |

第2章 地域資源を活かした賑わいのあるまちづくり

基本目標 1

地域資源を活かした賑わいのあるまちづくり

重要業績評価指標 (KPI)

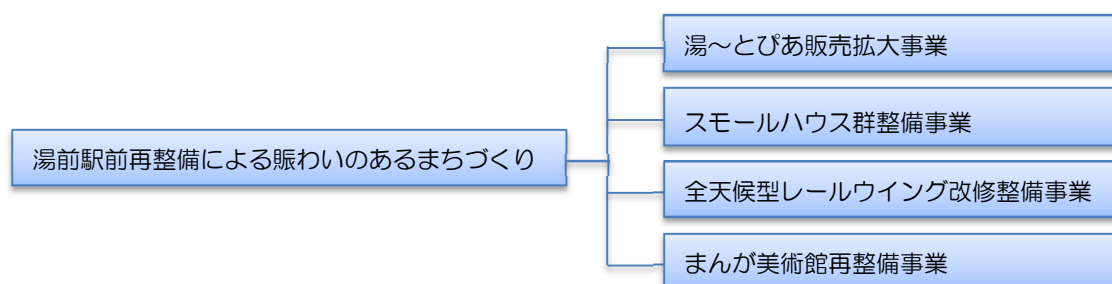
| 項目 | 基準値(現状値) | 実績値(令和2年度) | 目標値(令和6年度) |
|--------------|-----------|------------|------------|
| 観光入込客数 | 210,000 人 | 90,840 人 | 220,000 人 |
| 宿泊者数 | 4,253 人 | 3,813 人 | 8,567 人 |
| まんが関連施設の入館者数 | 9,500 人 | 2,014 人 | 13,210 人 |

第1節 湯前駅前再整備による賑わいのあるまちづくり

【戦略ビジョン】 湯前駅前再整備による賑わいのあるまちづくり

湯前町の魅力を最大に引き出すためには、終着駅としての湯前駅舎を中心とする駅前周辺のさまざまな地域資源を活用し、これまで以上の賑わいを復活させることが重要となります。このため、各種事業を展開していく上で必要となる施設等の新設や既存施設の利用改善を図っていきます。

施策体系



施策を取り巻く環境

- ◆ 湯前駅前には、歴史あふれる「湯前駅舎」の他、「レールウイング」、「まんが美術館」、物産販売を行っている「湯〜とぴあ」など本町の玄関口としての観光施設が集中的に配置されています。平成27年度には湯前駅前道路も改修され、イルミネーションなど新たな賑わいのツールも加わり、道路に面するレストランも観光客や地元町民で賑わっています。しかし、駅周辺の商店も次第に減少し、現在では、レストラン、居酒屋、酒店、タクシー会社のみとなり、空き地が目立つ寂しい通りになってきているのも実情です。本町の活性化を推進していくためには、まずは、この駅前周辺の賑わいを取り戻すことが不可欠になっています。
- ◆ 駅前周辺に賑わいを取り戻すためには、集客を可能にする様々な施設や工夫が必要ですが、当初から複合的な大型物産館などを設置することは、必ずしも得策とはいえません。むしろ、既存施設を中心に最適化を図りながら賑わいづくりに取り組むことが最良といえます。
- ◆ 歴史あふれる湯前駅に隣接して、「レールウイング」、「まんが美術館」、「湯〜とぴあ」など、本町を代表する観光施設が設置されていますが、いずれも老朽化や使い勝手の不便さが問題となっており、賑わいを取り戻すための前向きな利用展開が滞っています。本来の機能が有効に機能し、町の賑わいに貢献できるよう、そのあり方や利用目的を再確認するとともに、施設の改修等、利用が活発化する工夫が必要になっています。

解決すべき課題

- ◆ 快適性のあるまんが図書館への進化
また、現在の「まんが図書館」も図書館としての環境整備が不十分です。町民はもとより訪れた観光客が気軽にゆっくりとまんがを楽しむことのできるような空間づくりが必要です。
- ◆ レールウイングの改修
駅舎裏には、本町のシンボリックな場所として、「レールウイング」が整備され、これまで苺祭りやぶどう祭り、観月祭、漫画フェスタなどの町の大きなイベント会場として賑わってきました。しかし、利用が一部のイベントに限られ、年間の利用率が極めて低い状況にあります。また、老朽化に加え雨天時に屋根がないため利用しづらいといった課題も抱えており、今後、様々なイベントや日常的利用を拡大していくためにも、施設の大幅な改修が求められています。
- ◆ まんが美術館の再整備
まんがの町として、「まんが美術館」が整備されていますが、施設の老朽化に加え、教育課と同居しているため、美術館としての展示空間が手狭になっており、まんがをもっと積極的に打ち出すためにも、美術館の再整備を図り、来訪者を拡大していくための工夫が必要です。

施策事業と事業主体

| 施策事業名 | 事業主体 |
|-------------|-------|
| 湯～とぴあ販売拡大事業 | 企画観光課 |

本町の玄関口として、駅舎同様、「湯～とぴあ」は重要な役割を担っています。このため、今後の賑わいの拠点となるべく利用配置を改め、現在の物産販売所としての場所に新たに独立した「観光案内所」を設置し、物産販売所の販売面積を拡大しました。販売面積の拡大に伴い、今後は、既存の商品に追加してアニメ・まんがグッズなど多様な商品開発を行い、売り上げの向上が図れるよう努めていきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|--------------|-------------|
| スモールハウス群整備事業 | 建設水道課・企画観光課 |

「湯～とぴあ」の再配置、「まんが図書館」、「展示体験販売施設」の整備ができましたが本事業では、これを一つの転機として、新しい機能や役割が担える施設を設置することにします。具体的には、スモールハウスあるいはコンテナハウスと呼ばれる移動可能で安価な施設を設置することにします。スモールハウスやコンテナハウスは近年まちづくりにも全国で活用されており、特色あるデザインのハウスを複数設置することにより、ハウス自身による観光的効果を期待することができます。具体的には、若者会議や関係団体の意見を聴取しながら、設置を進めていきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|-------------------|-------------|
| 全天候型レールウイング改修整備事業 | 建設水道課・企画観光課 |

本町のシンボリック場所である「レールウイング」は、主要イベントの会場として活用されていますが、年間利用率が低く、今後は有効な活用方法を検討していくことが求められています。しかし、老朽化や雨天時の利用がしにくいなどの課題も抱えています。このため、全天候型の大屋根を整備するとともに、駐車場へのアプローチ、老朽部分の改修などを実施し、本戦略で別途計画予定である、マルシェ広場やレールダイニングなど様々な用途に使えるよう本格的な改修整備を推進していきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|-------------|-----------|
| まんが美術館再整備事業 | 建設水道課・教育課 |

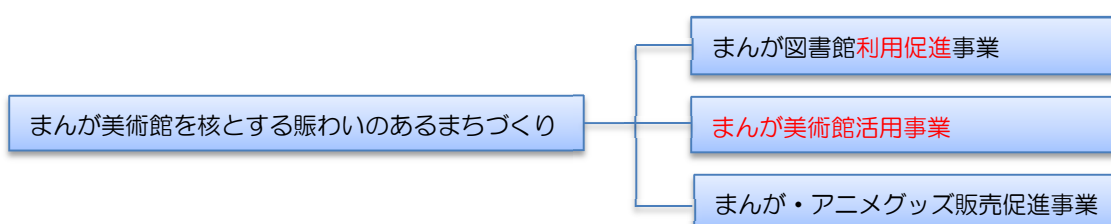
まんがの町として、「まんが美術館」が整備されていますが、施設の老朽化に加え、教育課が美術館内にいるため、美術館としての本来の機能を果たすための空間が手狭になっています。このため、教育課の事務室を移設することを検討し、本来の美術館としての機能を十分果たせるよう美術館内の施設再整備を推進していきます。

第2節 まんが美術館を核とする賑わいのあるまちづくり

【戦略ビジョン】 まんが美術館を核とする賑わいのあるまちづくり

まんが美術館、まんが図書館に代表されるように、湯前町はまんがの町でもあります。この特色をより鮮明に打ち出し、「まんがの町、湯前」と全国で認知されるよう、美術館、図書館等の改善整備を推進していきます。

施策体系



施策を取り巻く環境

- ◆ 「まんが美術館」、「まんが図書館」に代表される本町のまんがを活用した取り組みは、大きな特徴でもあります。11月に開催される、「漫画フェスタ」も全国からの来訪者で賑わっています。しかし、イベント時の賑わいに比べ、日頃まんがを楽しむために本町を訪れる観光客はさほど多いとは言えない状況です。貴重な地域資源として、その有効活用を最大限発揮出来る仕組みづくりや取り組みが望まれるところです。
- ◆ 今後は、駅周辺の賑わいを取り戻すための大きな地域資源として、「まんがの町、湯前」を前面に打ち出した取り組みや、まんがを楽しみに本町を訪れた方たちが十分満喫できるよう、「まんが美術館」や「まんが図書館」等の既存施設の改善、並びに周辺における特色ある街並みづくりが求められています。

解決すべき課題

- ◆ 快適性のあるまんが図書館への進化
現在の「まんが図書館」は、外の空間を利用した整備を行いました。床面の老朽化により、安全面での不安を抱えています。より、安全で快適性のある空間づくりが求められています。

◆ まんが美術館の活用

本町の「まんが美術館」は、美術館内部が手狭であり、老朽化も進んでいるため、記念館としての役割を十分果たすことができない状況にあります。まんがの町として、美術館をこれまで以上に有効に活用し、MANGA を通じた文化振興に努めるとともに、賑わいを創出する貴重な地域資源として様々な工夫をしながら、その価値を全国に発信していくことが求められています。

◆ まんがグッズ等の販売促進

近年、日本のまんがやアニメは世界的に注目されています。まんがグッズやアニメグッズも人気商品になっています。本町でも、「まんが美術館」の中でグッズも販売されていますが、ビジネスとして捉えているわけではありません。今後は、入館者の満足度を高めていくため、グッズ販売をビジネスとして考えていくことも必要になってきています。

施策事業と事業主体

| 施策事業名 | 事業主体 |
|--------------|-------|
| まんが図書館利用促進事業 | 企画観光課 |

「湯〜とぴあ」の再配置に伴い、常設の「まんが図書館」を設置し、外の空間も合わせての利用が可能になっています。今後も「まんが図書館」では、安全で快適にゆっくりとまんがを楽しんでもらえるよう、若者や子どもたちにも親しまれるデザインの図書館をめざします。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|------------|-----------|
| まんが美術館活用事業 | 建設水道課・教育課 |

「人が集い、楽しみ、学べる美術館への転換」を基本理念とした「まんが美術館活用計画」に定める施策・事業を展開していきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|------------------|----------------------|
| まんが・アニメグッズ販売促進事業 | 教育課・企画観光課 まちづくり団体 |

まんが美術館をはじめとする既存施設や新たな施設に、まんがグッズやアニメグッズの委託販売が可能なスペースを設け、まんがの町として、まんがの特色をより鮮明に打ち出していくため、まんが・アニメ関連商品の販売を促進していきます。

第3節 郷土文化を核とする賑わいのあるまちづくり

【戦略ビジョン】郷土文化を核とする賑わいのあるまちづくり

湯前町には、長年町民によって受け継がれてきた伝統技術や趣味から始まった高度な熟練技術が埋もれています。これらの町民の匠の技を積極的に活用し、展示空間を整備するのみならず、体験や成果品の販売を可能にしていく環境づくりをめざします。

施策体系

郷土文化を核とする賑わいのあるまちづくり

郷土文化展示・体験施設活用事業

施策を取り巻く環境

- ◆ 本町は豊かな歴史文化遺産に恵まれているだけでなく、長年町民によって受け継がれてきた伝統技術や趣味から始まった高度な熟練技術が豊富に存在しています。2月から3月にかけてで開催しているひなの会の「ひな祭り展」などは、その典型的成果で、高度な熟練技術による作品が展示され、町内外の見学者を楽しませています。また、「わらじづくり」の熟練技術者も存在しています。しかし、このように優れた郷土文化があるにもかかわらず、観光振興としての積極的な取り組みが不足しています。今後は、町の重要な宝として匠の技を埋もれさずことなく活用していく環境づくりが求められています。

解決すべき課題

- ◆ 郷土文化の地域資源としての活用促進

本町には、長年町民によって受け継がれてきた伝統技術や趣味から始まった高度な熟練技術が豊富に存在していますが、すぐれた地域資源でありながらも、観光振興や賑わいを生むためのツールとして有効活用されていません。今後は、本町の大事な宝として継承していくと同時に、積極的に観光振興等に活用していく仕組みづくりが求められています。

施策事業と事業主体

| 施策事業名 | 事業主体 |
|-----------------|-------|
| 郷土文化展示・体験施設活用事業 | 企画観光課 |

町民の匠の技を観光資源として積極的に活用していくため、訪れた観光客がいつでもその成果を見学できる展示空間を駅前に整備しており、展示空間のみならず完成品の販売、さらには着地型観光の一環として、

観光客のための体験施設を併せて整備しています。この施設を町内外の方々に利用していただけるよう情報発信に努め、活性化を図っていきます。

第4節 食文化を核とする賑わいのあるまちづくり

【戦略ビジョン】 食文化を核とする賑わいのあるまちづくり

湯前町には、豊富な食材とともに、伝統的な郷土料理が数多くあります。また、新たな食の開発に熱心な町民も数多く存在します。このような食に関する地域資源をより積極的に活用し、賑わいづくりに貢献させることが望まれます。このため、地元町民はもとより本町を訪れる来訪者にも「湯前の食」を楽しんでもらえる空間づくりを推進していきます。

施策体系

食文化を核とする賑わいのあるまちづくり

レールダイニング促進事業

施策を取り巻く環境

- ◆ 本町では、食分野においても下村婦人会の商品をはじめ地域資源になり得るものが豊富にあります。伝統的な郷土料理も数多く存在します。また、下村婦人会による郷土料理の開発や地元の食材を使ったオーガニック料理に取り組んでいる方もいらっしゃいます。しかし、こうしたせっかくの地域資源ともいえる食文化が町内にあまり知れ渡っておらず、町の賑わいにも貢献できていない状況にあります。

解決すべき課題

- ◆ 食文化の活用
本町の豊富な食材利用の促進とともに、伝統的な食文化を賑わいのあるまちづくりに活用し、来訪した観光客の満足度を高めていくための仕組みづくりが不可欠です。また、食の世界で生計を立てようと考えている方たちの雇用の場を確保していくことも重要となります。

施策事業と事業主体

| 施策事業名 | 事業主体 |
|--------------|-----------------|
| レールダイニング促進事業 | 企画観光課 食関連事業者 |

駅前周辺の賑わいづくりの一つとして、レールウイングを活用したレールダイニング(湯前食堂)の定期的な開催を検討していきます。料理は地元食関係事業者の協力を仰ぎながら、地元の農畜産物を使った料理をバイキング形式で楽しんでもらえるような工夫を検討していきます。

第3章 暮らしを支える産業と持続可能な雇用を生み出すまちづくり

基本目標2

暮らしを支える産業と持続可能な雇用を生み出すまちづくり

重要業績評価指標 (KPI)

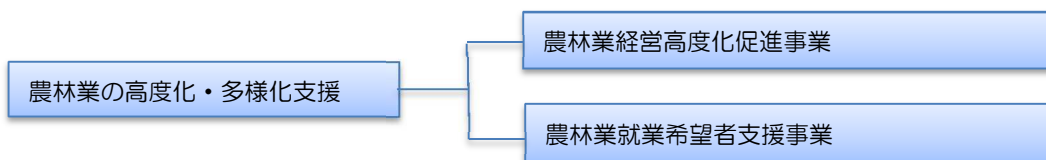
| 項目 | 基準値(現状値) | 実績値(令和2年度) | 目標値(令和6年度) |
|-----------|----------|------------|------------|
| 認定農業者数 | 49人 | 57人 | 50人 |
| 事業所への就業者数 | 976人 | 1,099人(R3) | 1,000人 |
| 新規就農者数 | 0人 | 16人(累計) | 23人(累計) |

第1節 農林業の高度化・多様化支援

【戦略ビジョン】農林業の高度化・多様化支援

湯前町の基幹産業は、何と言っても農林業です。将来的にも後継者を維持していくことが望まれます。このため、若い世代の参入が少しでも可能になるよう、新たな農林業経営の開発や農林業就業希望者のための支援環境の構築をめざします。

施策体系



施策を取り巻く環境

- ◆ 本町の基幹産業である農林業の持続的発展は、地域活性化の源となるものです。本町は豊かな自然環境に恵まれていることから、農林業が盛んに営まれてきました。しかし、近年の販売価格低迷や燃料、資材の高騰等による農林業所得の低迷は農林業離れを引き起こし、後継者不足と従事

者の高齢化が問題化しています。このような状況の中、農林業が魅力とやりがいのある職業となるよう、また若手農林業者の継続や新規参入を推進できるよう、農林業経営の現代化の促進と意欲ある担い手の育成が必要となっています。また、付加価値の高い商品の生産・販売を支援し、農林業振興を地域活性化の大きな柱として取り組んでいくことが重要です。

解決すべき課題

◆ 農林業経営の現代化

高齢化が進行する中、本町の農林業を持続的に発展させていくためには、農林業後継者や移住者などの新規参入者の確保・育成が重要な課題となってきます。そのためには、魅力ある仕事として若い世代に知らしめていくと同時に、新しいスタイルの農林業経営手法を身につけさせ、収益向上を支援するための仕組みづくりが必要です。

◆ 農林業就業希望者支援

また、農林業後継者や移住者などの新規参入者の確保を推進していくためには、安心して農林業に従事できるよう、農林業従事者や農業公社、林業事業体などが連携して町全体として就業に関する知識や技術を支援していく仕組み作りが重要な課題となってきます。

施策事業と事業主体

| 施策事業名 | 事業主体 |
|--------------|---------------------|
| 農林業経営高度化促進事業 | 農林振興課 農業公社・林業事業体 |

高齢化が進行する中、本町の農林業を持続的に発展させていくためには、農林業後継者や移住者などの新規参入者の確保・育成が重要な課題となってきます。そのために、魅力ある仕事として若い世代に認知されていくことが重要となります。このため、オープンデータやビッグデータを活用した新しいスタイルの農林業経営手法を取り入れるなど農林業経営の高度化を図り、農林業従事者の収益向上に貢献できる支援策を展開していきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|--------------|---------------------|
| 農林業就業希望者支援事業 | 農林振興課 農業公社・林業事業体 |

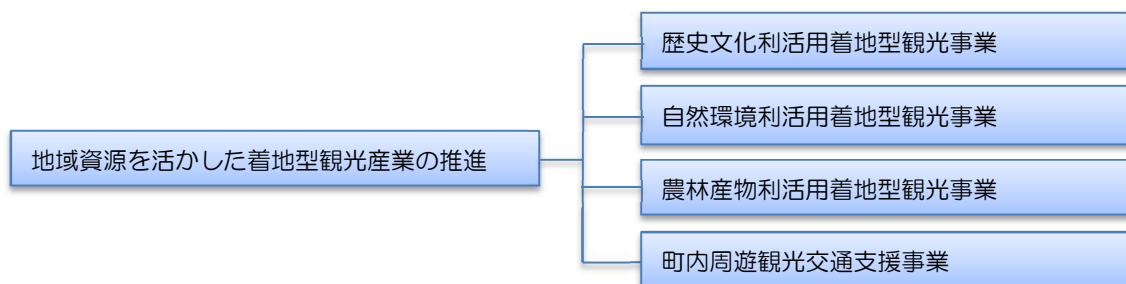
農林業後継者や移住者による新規参入者を確保していくためには、農林業経営の高度化とともに、安心して農林業に従事できるよう資金的支援に加えて、就業に関する知識や技術を支援していく仕組みづくりが不可欠です。このため、農業公社や林業事業体を中心に本町在住の就業者の協力を得ながら、就業希望者に必要となる知識や技術を提供していく仕組みづくりを推進していきます。

第2節 地域資源を活かした着地型観光産業の推進

【戦略ビジョン】 地域資源を活かした着地型観光産業の推進

湯前町は、ローカル鉄道の終着駅を有するという貴重な地域資源をもっています。この地域資源を有効に活用するためには、発地型観光ではなく、着地型観光をめざしていくことが不可欠です。このため、湯前町が有するさまざまな地域資源を最大限に活用した着地型観光産業の創出に努めていきます。

施策体系



施策を取り巻く環境

- ◆ 本町は、美しい自然や歴史文化遺産、独特の食文化など様々な地域資源に恵まれた地域です。しかし、田園シンフォニーで来町された団体観光客は、田園シンフォニーに乗車すること自体が目的となり、終着駅である湯前を観光地として満喫しているわけではありません。田園シンフォニーや自家用車で訪れた個人観光客も、観光施設への案内や誘導が不十分なため、本町の魅力を十分満喫しないまま帰っていくケースが多いのも事実です。本町としても、町の豊富な地域資源を積極的に活用した観光振興が十分成熟されておらず、せっかくの観光客を逃してしまっている状況にあります。まさに発地型観光地になっており、本町をゆっくり満喫できる観光プランを構築していくことが求められています。そのためには、豊富な地域資源を活かした様々な着地型観光を推進し、実践していくことが重要だといえます。また、このような着地型観光が軌道に乗れば、町の賑わいを取り戻すだけでなく新たな雇用を創出することも可能になると期待されることです。
- ◆ また、本町を来訪される方の交通手段は、人吉市からバスや田園シンフォニーで来られる方と自家用車で来訪される方の2通りの方法がありますが、バスや田園シンフォニーで来訪された方の2次交通手段はタクシーしかありません。このため、タクシー以外には徒歩で散策するしかなく、離れた場所への移動が困難になり、せっかくの観光名所を訪れることを断念してしまうケースもあります。着地型観光の推進に加えて2次交通手段の提供をしっかりと行うことが重要です。

解決すべき課題

◆ 着地型観光の推進

田園シンフォニーで来町される団体観光客は、列車を楽しむこと自体が主となり短時間の滞在にすぎません。個人観光客を誘客し、本町の魅力を十分発揮した観光振興を実践していくためには、観光客が本町に長時間滞在できるような仕組みをつくっていくことが重要となります。そのためには、長時間滞在を可能とする着地型観光を推進していくことが不可欠です。加えて、着地型観光を推進することにより、新たな雇用づくりにつなげていくことが期待されています。

◆ 2次交通手段の確保

人吉からバスや田園シンフォニーで来られる個人観光客の方の2次交通手段が整備されていません。自転車の貸し出しも駅前で行っていますが、魅力あるサイクリングが可能な自転車とはいえません。散在している本町の観光施設を自然を楽しみながら満喫できる2次交通手段の整備が不可欠です。

施策事業と事業主体

| 施策事業名 | 事業主体 |
|----------------|-------|
| 歴史文化利活用着地型観光事業 | 企画観光課 |

本町の魅力の一つである城泉寺や八勝寺などに代表される歴史文化遺産を観光資源として積極的に活用していくため、着地型観光の一つとして捉え、パワースポットや魅力あふれる歴史文化周遊コースを設定し、観光案内人をガイドとして、有料事業として観光客に提供していくプランを構築していきます。また、別途展開していく、「郷土文化展示・体験環境整備事業」についても、着地型観光の一つとして連動しながら推進していきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|----------------|-------|
| 自然環境利活用着地型観光事業 | 企画観光課 |

着地型観光の一つとして、本町の魅力の一つである自然環境を活用した事業を計画していきます。本町にはレジャー施設が充実した「グリーンパレス」や温泉宿泊施設の「湯楽里」、コテージ、キャンプ場などがあります。また、歴史あふれる農業用水路である「幸野溝」や球磨川の支流である都川など自然あふれる河川が存在しており、自然を満喫できる環境下にあります。これらの自然環境を活用し、「グリーンパレス」や「湯楽里」と連携しながら、観光を推進していきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|----------------|-------|
| 農林産物利活用着地型観光事業 | 企画観光課 |

本町は食の宝庫でもあります。人材も下村婦人会をはじめ、オーガニック料理に取り組んでおられる町民もおられます。食に関しては多くの方が興味を持つ分野であり、このような物的、人的地域資源を町の活性化に活用し、さらなる雇用につなげていくことが期待されるところです。このため、既存人材に加えて新たな雇用につながる人材を育成しながら、地元農林産物を活用した料理づくりを着地型観光の一つとして事業化を推進していきます。本町を訪れる観光客には、食事をしながら、湯前の郷土料理やオーガニック料理などを学べる機会を提供していきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|--------------|-------|
| 町内周遊観光交通支援事業 | 企画観光課 |

本町は、全体的に平坦な道路が続き、人吉から湯前までサイクリングロードもあるなど、自転車を移動の手段に利用することは最適な方法といえます。駅前では、「湯〜とぴあ」で観光客用に自転車の貸し出しも行ってはいますが、十分満足いくものではなく利用が少ないのが実情です。しかし、自転車を本町の観光での2次交通手段として積極的に売り出していくことは、比較的若い世代の観光客にとっては魅力あるものになり得る可能性を秘めています。人吉球磨観光地域づくり協議会とも連動しながら、取り組みを進めていきます。

第3節 地域資源を活かした物産流通促進事業

【戦略ビジョン】地域資源を活かした物産流通促進事業

湯前町の生産物を広く町外に知らせ、湯前を訪れた方たちの購買意欲を高めていくためには、さまざまな広報活動とともに、町外からも購入できる環境を整えておくことが不可欠です。このため、インターネット環境を活用した販売促進環境の整備に努めていきます。

施策体系

地域資源を活かした物産流通促進事業

eコマース推進事業

施策を取り巻く環境

- ◆ 今後、地域資源を活用した地域活性化を推進していく上で、本町で生産された物産を広く町外に知らしめ、販売促進に繋げていくことが重要になってきます。また、湯前を訪れた方たちの購買意欲を高めていくためにも、さまざまな広報活動とともに、町外からも購入できる環境を整えておくことが不可欠となっています。そのため、近年では様々な物産を店頭での直接販売に加え、インターネットを介して販売するeコマース等が全国的に普及しています。本町の事業者の中にも楽天などを活用したeコマースを導入している事業者が存在しますが、まだまだ一部に限られており、本格的な導入には至っていません。今後はより積極的に活用し販路を拡大していく仕組みづくりが求められています。

解決すべき課題

- ◆ eコマース事業の推進
eコマース事業を持続的に推進していくためには、個別の事業者がeコマース事業のノウハウを学び習得していくが必要になってきますが、本町のような小規模の町にとっては、個々の事業者が個別にeコマース事業を展開していくよりも、むしろ町全体で取り組む手法も積極的に導入していくことが重要となります。そのための体制づくりが不可欠です。

施策事業と事業主体

| 施策事業名 | 事業主体 |
|-----------|-----------|
| eコマース推進事業 | 企画観光課・商工会 |

本町の物産販売を拡大していくためには、eコマース事業を積極的に取り入れていく必要があります。しかし、本町の場合小規模な町のため、eコマースも個別事業者に依存するより、むしろ町全体として推進していく方が様々な面で効果が上がってくるものと予想されます。このため、eコマース事業を展開し、事業者の啓発活動から実際の運用管理までを担っていける仕組みづくりを推進していきます。将来的には移住者等の雇用の場となるよう努めていきます。

第4章 若者が暮らしやすいまちづくり

基本目標3

若者が暮らしやすいまちづくり

重要業績評価指標 (KPI)

| 項目 | 基準値(現状値) | 実績値(令和2年度) | 目標値(令和6年度) |
|---------------|----------|------------|------------|
| 若者向け単身者町営住宅戸数 | — | 6戸 | 6戸 |
| 子育て世帯向け住宅建設事業 | — | — | 6戸 |

第1節 若者が安心して暮らしていける住まいづくり

【戦略ビジョン】若者が安心して暮らしていける住まいづくり

若者が町に定住しようと思うためには、働く場所とともに、暮らしやすい住環境を整備していくことが望まれます。このため、若者志向の機能やデザインを取り入れた住環境の整備をめざしていきます。

施策体系

若者が安心して暮らしていける住まいづくり

若者向け単身者住宅建設事業

子育て世帯向け住宅建設事業

施策を取り巻く環境

- ◆ 本町における賃貸住宅物件は、町営住宅の他に、民間の賃貸住宅物件はほとんどありません。町営住宅は老朽化が目立ち、若い世代の居住環境としては改善が必要になってきています。また、民間賃貸住宅は都市部のようにアパート形式の物件もなく、空き家を賃貸住宅として利用せざるを得ない状況にあります。特に単身者用の住宅はなく、町外で賃貸物件を探すことが一般的になっています。

- ◆ 今後、移住希望者の拡大を図るとともに、若い世代の定住者を増やしていくためには、この居住環境問題を解決していくことが、雇用の場の確保とともに重要な課題になってきています。特に、若い世代には、単身者用住宅の確保、ならびに若い子育て世代にとって快適な居住環境を確保していくことが不可欠になっています。

解決すべき課題

- ◆ 若い世代の居住空間の確保
若者の定住促進を図っていくためには、雇用の確保とともに、生活の基盤となる居住空間を確保していくことが重要となります。移住希望者が安心して本町で生活できるよう、また、本町在住の若い世代が、親から独立しながらも親の近隣で生活できるよう、単身者や若い子育て世代のための住宅を町内で確保していく必要があります。

施策事業と事業主体

| 施策事業名 | 事業主体 |
|---------------|-------|
| 若者向け単身者住宅建設事業 | 建設水道課 |

単身者は、コンパクトでも快適な現代的居住空間を求める傾向にあり、独身者用のアパート等を整備していくことも、若い世代の移住者を獲得する上で重要となります。このため、駅周辺の利便性の比較的良い場所を候補地として、単身者向き町営住宅の建設を検討していきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|---------------|-------|
| 子育て世帯向け住宅建設事業 | 建設水道課 |

子育て世帯にとって、安心して子育てできる環境は非常に重要なものとなります。子育て世帯向けの住宅を整備していくことも、若い世代の移住定住を促進する上で重要となります。このため、駅周辺の利便性の比較的良い場所を候補地として、子育て世帯向け町営住宅の建設を検討していきます。

第2節 子どもを安心して生み育てられるまちづくり

【戦略ビジョン】子どもを安心して生み育てられるまちづくり

若い夫婦にとって、子育てに適した町の環境が望まれます。その一つに子どもを見守ることができ、安心して屋外で遊ばせる環境が必要です。親子で安心・安全を確保しながら、自由に交流できる空間の整備をめざします。

施策体系

子どもを安心して生み育てられるまちづくり

親子ふれあい環境整備事業

施策を取り巻く環境

- ◆ 若い世代の移住希望者にとっては、子どもたちを安心して遊ばせることのできる場所が居住空間の近くに立地していることは、移住要件の一つになることが予想されます。本町は、子どもたちが自然に触れながら育っていく環境としては恵まれた町だといえます。また、スポーツ振興の場として海洋センターも設置されており、多くの町民に活用されています。しかし、生活の場としての居住空間に隣接した場所には、子どもたちが自由に遊べる公園などがあまり整備されていません。特に、若い世代の親や祖父母が就学前の幼児や低学年の子どもたちを安心して遊ばせる空間が不足しているのも事実です。
- ◆ 本町には、役場に隣接した保健センターも設置されていますが、都市部のように、子育て中の若い母親が気軽に子ども連れで立ち寄り、同じような環境下にある母親同士のコミュニケーションを図れる場所がありません。日常的なコミュニティに加え、親同士の子育てに関する情報交換が気軽にできる空間づくりが望まれるところです。また、子育ての先輩であるシニア世代との交流の場も相互のメリットとして望まれるところです。

解決すべき課題

- ◆ 親子のふれあいの場の整備
町民はもとより、若い世代の移住者の子育ての要件として、居住空間に比較的隣接した場所で、就学前の幼児や低学年の子どもたちを安心して自由に遊ばせる環境が整備されていることが不可欠になってきます。そのための公園等の整備が今後の課題の一つといえます。
- ◆ コミュニティ空間の整備
町民はもとより移住者にとって、子育て中の若い母親たちが気軽に子ども連れで立ち寄り、母親同士のコミュニケーションを図ることのできる空間づくりが必要です。

施策事業と事業主体

| 施策事業名 | 事業主体 |
|--------------|-------|
| 親子ふれあい環境整備事業 | 建設水道課 |

計画中の全天候型レールウイング改修に伴い、新たに整備されたスペースに人口芝を用いて就学前の幼児や低学年の子どもたちを安心して自由に遊ばせる環境づくりを検討します。また、町民のみならず田園シンフォニーや車で近隣の市町村からも親子連れで遊びに来れるような環境づくりをめざします。

第5章 情報が行き交うまちづくり

基本目標4

情報が行き交うまちづくり

重要業績評価指標 (KPI)

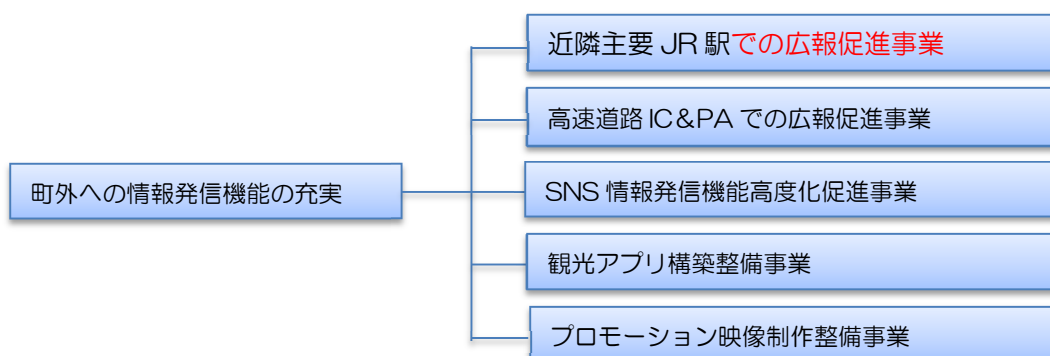
| 項目 | 基準値(現状値) | 実績値(令和2年度) | 目標値(令和6年度) |
|---------------|-----------|-----------------------|-------------------------|
| 観光入込客数 | 210,000 人 | 90,840 人 | 220,000 人 |
| 役場ホームページアクセス数 | 120,000/年 | 1,191,501 ページビュー/年 | 2,100,000/年 ページビュー/年 |
| SNS 登録者数 | — | 223 ユーザー | 1,300 ユーザー |

第1節 町外への情報発信機能の充実

【戦略ビジョン】 町外への情報発信機能の充実

湯前の流入人口を拡大していくため湯前の魅力を効果的に発信していくとともに、湯前を訪れる方の利便性向上に努めていきます。

施策体系



施策を取り巻く環境

- ◆ 本町は、観光列車田園シンフォニーが走るくま川鉄道の終着駅という特色があり、人吉・球磨地区という日本遺産に認定された地域の一つでありながらも、知名度がまだまだ低いのが実情です。その結果、周辺地域の中でも豊富な地域資源を有する地域でありながらも、十分その効果を発揮できず、流入人口の拡大に貢献できていない状況にあります。
- ◆ 熊本県の主要交通拠点や高速道路サービスエリアなどにおいても、本町を周知するための広報宣伝機能がほとんどなく、近隣まで来られる観光客にも本町の情報を十分伝えきれていないのが現状です。特に、球磨地区の玄関口である八代市や人吉市での情報周知活動が不足しています。
- ◆ また、情報の発信機能も次第にインターネットを活用した手段が数多く利用される時代になってきました。本町でも、ホームページやSNSを活用した広報宣伝手法も導入していますが、町全体としての情報発信ポリシーが十分確立されておらず、魅力を感じてもらえるコンテンツのあり方や特色ある利用方法の高度化には至っていません。
- ◆ さらには、近年では地域の魅力を表現するメディア手段として、プロモーション映像など動画が積極的に活用されていますが、本町では美しい自然や歴史文化遺産などの地域資源を外部に発信していくためのメディア資産を十分保有していないのも事実です。

解決すべき課題

- ◆ 交通拠点での情報発信機能の充実
湯前の知名度を高めていくためには、情報の発信力を高めていく必要があります。湯前を訪れようとしている方に加え、近隣地域を訪れようとしている方々をいかに本町へ誘客していくかが重要となります。そのためには、近隣の交通拠点での情報発信力を高める工夫が不可欠です。また、湯前に訪れようとしている方々へのアプローチを容易にするための工夫が必要です。
- ◆ 情報発信ポリシーの確立
情報発信機能を高めていく上で、インターネットを活用していくことは不可欠な時代になってきました。しかし、まとまりのない情報発信では、その効果を十分発揮することはできません。町全体としての情報発信のポリシーを官民全体で共有化し、それぞれの役割や情報伝達内容の整合性を担保しながら、真にその効果を発揮できるような仕組みをつくっていく必要があります。
- ◆ 魅力ある情報コンテンツの構築
湯前の知名度を高めていくためには、魅力あふれる情報コンテンツによる発信であることが不可欠です。インターネットを介した情報コンテンツはもとより、パンフレットやポスターについても同様です。近年では、

映像を活用した広報も大いにその効果を発揮しており、魅力ある情報コンテンツの制作に努めていくとともに、プロモーションビデオなど映像情報を広報宣伝にいつでも利用できるよう、日頃から映像情報の蓄積をしていく必要があります。

施策事業と事業主体

| 施策事業名 | 事業主体 |
|-------------------|-------|
| 近隣主要 JR 駅での広報促進事業 | 企画観光課 |

本町への玄関口である人吉市は、数多くの観光客が訪れています。この観光客を本町まで誘客するため、人吉市内での広報宣伝活動が重要になります。また、近隣の主要 JR 駅である人吉駅、八代駅、新八代駅などに、観光パンフレットの設置を関連機関と調整を取りながら推進していきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|-----------------------|-------|
| 高速道路 IC & PA での広報促進事業 | 企画観光課 |

現在、くま川鉄道の田園シンフォニーを利用した観光客のみならず、自家用車を利用した観光客も数多く存在します。これらの観光客の利便性を高めるため、人吉市近隣の高速道路サービスエリア(SA)に湯前観光パンフレットや観光ポスターの設置を可能にするよう関連機関と調整していきます。また、人吉インターチェンジから本町へのアプローチを容易にするため、案内板の設置を検討していきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|-------------------|------|
| SNS 情報発信機能高度化促進事業 | 総務課 |

本町も近年「湯前町サポーター」や「観光物産協会 湯〜とぴあ」、「地域おこし協力隊」などたくさんのソーシャルメディアを活用した広報宣伝活動が行われています。今後ますますその必要性が高まってくる中、より効率的、効果的な運用を図っていくため、整合性や役割分担など町全体としての利用方法を検討し、これまで以上に利用者を拡大していく仕組みを構築していきます。また、町民全体が参加できるよう利用者の育成もあわせて推進していきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|-------------|-------|
| 観光アプリ構築整備事業 | 企画観光課 |

現在、町内に数多く存在する観光関連サイトのあり方を町内全体で見直し、整合性や役割の再整理を行い、町全体として十分な効果を発揮できるよう情報発信のあり方を再検討して、必要に応じて新たな観光アプリなどの構築をめざしていきます。また、本町の若者たちとの協働作業により、魅力を感じる観光関連情報の発信を推進していきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|---------------|-------|
| プロモーション映像制作事業 | 企画観光課 |

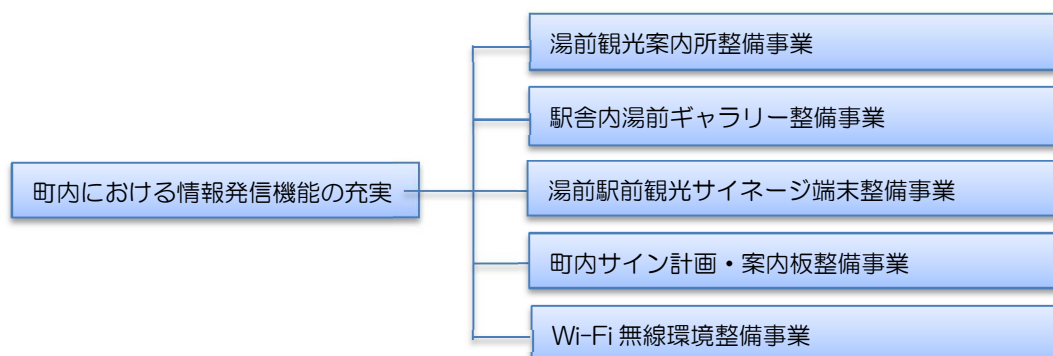
本町の魅力をリアルに迫力を持って情報発信していくため、ドローンなどを活用し、美しい自然環境や寺社仏閣などの歴史遺産、さらには食文化、各種イベントなどの映像をアーカイブ化し、様々な場所でプロモーションビデオとして活用できるよう、計画的に映像制作を推進していきます。

第2節 町内における情報発信機能の充実

【戦略ビジョン】 町内における情報発信機能の充実

湯前を訪れた方たちが、安心して湯前を回遊できたり、湯前に関する情報を容易に獲得できるよう情報提供環境の充実に努めていきます。

施策体系



施策を取り巻く環境

- ◆ 湯前駅に隣接して、「ふれあい交流センター 湯〜とぴあ」が設置されており、物産の販売とともに観光案内所を兼ねています。しかし、駅舎の中や「湯〜とぴあ」には、本町に関するパンフレットなどが多少設置されているものの、列車を降りた観光客や駅を訪れた観光客には、その存在が十分認知されていません。このため、本町にはどのような観光名所があるのか、どのようにそこまで行けばよいのか十分把握できずに観光されている方が多いのが現状です。他地域でも観光の拠点は駅周辺に存在しており、本町でも本格的な観光案内所の役割を担う施設が必要です。

-
- ◆ 田園シンフォニーから降り立った観光客や駅を訪れる観光客が、まず駅周辺で湯前の魅力を感じてもらうことから観光が始まるといえますが、駅周辺で本町の魅力や見所をアピールする施設が乏しいのも事実です。まんがや歴史文化、美しい自然に裏打ちされた本町の魅力をまず知ってもらえる環境づくりが不可欠です。
 - ◆ 豊富で多彩な観光施設等を有しながらも、そこに行くまでのサイン表示や案内板が少なく、来訪者は、立ち寄るのを断念する場合もあるようです。徒歩で巡る観光客にも、自家用車で巡る観光客にも、より親切的な誘導を可能にしていく工夫が不可欠です。
 - ◆ スマートフォンやタブレット端末の普及拡大に伴い、いつでも、どこでもインターネットが使える環境を整備していくことが社会の要請になっています。湯前町でも、観光客や地元町民の利便性を向上させるため、平成27年度に無線 Wi-Fi 環境を主要施設に整備したところですが、本戦略にもとづいて様々な施設等が整備されてきた際には、現在の環境では不十分になってくることは明らかで、さらなる整備が望まれるところです。

解決すべき課題

- ◆ 観光拠点・観光案内所の整備
観光客の利便性を向上させるため、本町の玄関口である湯前駅周辺に本格的な観光案内所を設置するとともに、本町の観光拠点であり情報の発信基地としての役割を担う組織の本部となるような空間を確保していくことが必要です。
- ◆ 駅前周辺での魅力ある情報提供
駅を降り立った観光客や駅を訪れる観光客が、本町の概観や魅力をまず感じることができ、本町を観光しようという興味と意欲を喚起させる情報発信環境を駅周辺で整備していくことが不可欠です。
- ◆ 観光客に優しい観光施設への誘導
観光客に対する観光施設への誘導が十分親切とはいえません。目的とする観光施設に容易に辿りつけるよう、よりわかりやすいサイン表示や案内板を町内の適切な位置に配備し、安心して本町を巡ることができる環境を整えていくことが必要です。
- ◆ 無線 Wi-Fi 環境の充実
旅の途中でインターネットを利用することは、当たり前の時代になってきました。本町を訪れる方たちが、いつでも、どこでもインターネットにアクセスできるよう、今後賑わっていくであろう場所や、観光拠点施設になっていく場所には、無線 Wi-Fi 環境の整備を拡充していくことが必要です。

施策事業と事業主体

| 施策事業名 | 事業主体 |
|-------------|-------|
| 湯前観光案内所整備事業 | 企画観光課 |

湯前観光の出発点は、列車を利用される方も車を利用される方も湯前駅と考えます。そのため、隣接する現在の観光物産協会が設置されている「湯〜とぴあ」の空間を利用し、今後の湯前観光の拠点としての役割を担う観光案内所を設置しています。本観光案内所では、今後展開されていく様々な着地型観光事業の拠点としての役割や、情報発信基地としての役割も担っていきます。また、本観光案内所には、本町を観光しようとする方々のため、様々な情報を容易に獲得できるような仕組みを導入するとともに、観光案内人の拠点としての役割も担っていきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|----------------|-------|
| 駅舎内湯前ギャラリー整備事業 | 企画観光課 |

歴史的価値の高い湯前駅舎は、今後とも景観を壊さないよう維持していくことが重要となりますが、田園シンフォニーを下車された観光客や駅舎を見学に来られた方たちに、本町の歴史文化をまず知っていただくために、駅舎内部の壁を活用しながら、駅舎資料館的役割を担う、「湯前駅ギャラリー」を常設し、城泉寺や八勝寺、伝統芸能など本町を代表する歴史文化遺産を展示していく空間を整備していきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|-------------------|-------|
| 湯前駅前観光サイネージ端末整備事業 | 企画観光課 |

田園シンフォニーを下車された観光客や駅舎を見学に来られた方たちが、本町の魅力をいち早く体感できるよう、観光案内所に大型観光サイネージ端末を設置し、リアル感溢れる映像や魅力ある写真画像などを提示し、湯前観光への意欲と関心を高める仕組みを構築していきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|-----------------|-------|
| 町内サイン計画・案内板整備事業 | 企画観光課 |

本町を訪れた観光客が安心して周遊できるよう、主要観光施設等への誘導を容易にするための案内板やサイン表示を適正に整備していきます。なお、設置に関しては、町並みの景観を壊さないよう工夫に努めています。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|----------------|------|
| Wi-Fi 無線環境整備事業 | 総務課 |

平成27年度の事業として、町内観光施設等の主要箇所に無線 Wi-Fi 環境を整備し、観光客の利便性向上に努めてきました。このため、今後も新たに整備される施設周辺をはじめ必要と考えられる施設等への整備を推進していきます。

第6章 まちづくりを担う人づくり・仕組みづくり

基本目標 5

まちづくりを担う人づくり・仕組みづくり

重要業績評価指標 (KPI)

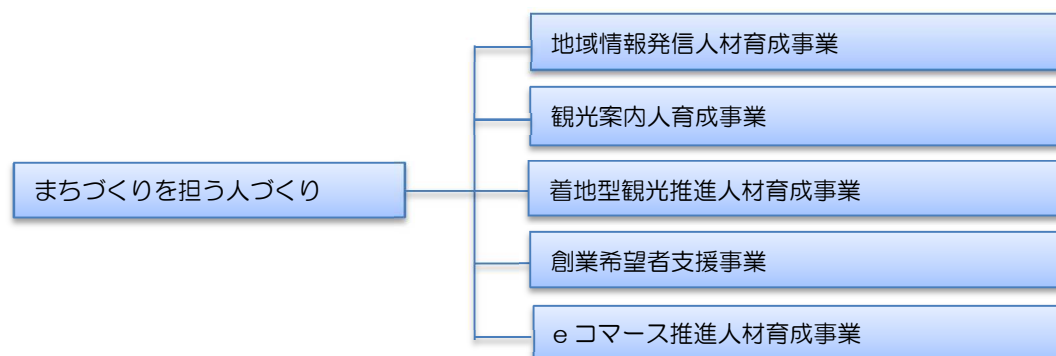
| 項目 | 基準値(現状値) | 実績値(令和2年度) | 目標値(令和6年度) |
|------------------|----------|------------|------------|
| 創業者数 | — | 1人 | 5人(累計) |
| 若者会議による施策や事業の提案数 | — | 0件 | 5件(累計) |

第1節 まちづくりを担う人づくり

【戦略ビジョン】まちづくりを担う人づくり

今後、本地域活性化戦略にもとづき、各種事業を持続的に展開していくためには、その事業を担っていく人材が不可欠です。そのため、各種事業の展開と並行しながら、必要となる人材の育成に努め、しごとと雇用の創出につなげていきます。

施策体系



施策を取り巻く環境

- ◆ 本町は、わずか人口 3,600 人の町です。地域を変える大きな産業などがあるわけではありません。役場の職員にも限りがあります。そういった意味では、今後のまちづくりには、町民、地域事業者、行政などが一体となって取り組んでいくことが何より求められてきます。そのためには、本町の活性化に対する町民全員の意識改革と人材育成が何よりも重要になってきます。
- ◆ 近年、本町では外部の力を借りながら、様々な住民向け講演会や情報発信能力向上講座、観光アプリ開発などを実践してきました。また、平成27年度からは「観光案内人」講座なども開催し、地域の活性化を支える人材育成に努めてきました。しかし、今後の様々なまちづくり事業には、より多くの町民の参加が不可欠です。より専門的な知識や技術を獲得しながら、一部の事業については官主導から民主導へ移行していくことが望まれます。そのためには、町をあげての人材育成を推進していくことが重要となります。また、移住者や地元の若者が本町に定住していくには、雇用の場が不可欠であり、雇用につながる人材育成環境が必要です。
- ◆ 本町は、豊富な地域資源に恵まれた地域の一つといえます。まんがや歴史文化にとどまらず、様々な物産についても貴重な地域資源の一つです。この本町の物産を広く町外に周知し、販売促進につなげていくことも今後重要になってきます。
- ◆ 一方、近年では様々な物産を店頭での直接販売に加え、インターネットを介した e コマース等が全国的に普及しています。本町の事業者の中にも e コマースを導入している事業者が存在しますが、まだまだ一部に限られており、本格的な導入には至っていません。今後はより積極的に活用し販路を拡大していくことが求められています。

解決すべき課題

- ◆ 地域情報発信人材の育成
本町の情報をインターネット等を介して広く発信していくためには、特定の担当者のみならず、町民全員が情報発信していくという風土が育っていくことが求められます。これまで実践してきた各種情報発信能力向上講座をさらに発展させ、行政のみならず町民が主体的に情報を発信していくことを目的とした人材育成が必要です。

◆ 観光案内人の育成

現在、観光案内人の取り組みが実践されるようになってきましたが、まだ限られた町民に留まっています。今後は、より積極的に町民が参加できる仕組みづくりとともに、より多くの町民が観光案内人になるための育成が必要です。

◆ 着地型観光推進人材の育成

本町の観光産業を発展させていくためには、今後、着地型観光を積極的に導入していくことが不可欠です。そのためには、それを担う人材が必要となってきます。本戦略にもとづき計画中の着地型観光を成功させるため、まずは、それぞれの事業を担い、運営していける人材育成が重要な課題となってきます。

◆ 創業希望者支援事業

食分野も下村婦人会の商品をはじめ本町の地域資源になり得るものが豊富にあります。この本町の食を賑わいづくりに活かしていくことは、重要な地域活性化の視点といえます。しかし、本町には食としての地域資源は豊富なものの、提供していく場が十分であるとは言えません。今後、移住者も含め食分野で賑わいづくりを推進していくためには、食分野に興味や関心を抱き、生活の糧になり得る力量を培っていく人材づくりや創業時の支援などがこれまで以上に必要になってきます。

◆ eコマース推進人材の育成

eコマースは、地域の物産販売を活性化していく上で、重要な要素となってきています。しかし、本町では、本格的に導入している事業者はまだ少なく、今後の物産販売の販路拡大に向け、組織立って取り組んでいくことが不可欠です。そのための事業者育成が重要な課題といえます。

施策事業と事業主体

| 施策事業名 | 事業主体 |
|--------------|-------|
| 地域情報発信人材育成事業 | 企画観光課 |

地域の情報発信を推進していくためには、行政はもとより、民間レベルでの情報発信が必要になってきます。これまでも積極的に町民を巻き込んだ情報発信能力向上講座等を推進してきたところですが、より本格的な情報発信能力向上講座を定期的で開催し、役場職員、並びに町民の地域情報発信の意義や目的意識を高めていくとともに、技術的能力向上に努めていきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|-----------|-------|
| 観光案内人育成事業 | 企画観光課 |

現在、観光案内人養成講座等が開催され、観光客への案内が容易にできる人材育成が行われていますが、今後は、観光案内人として多くの町民が参加し組織化できるよう、「湯前学※」の習得を町民に呼びかけ、今後の着地型観光にも貢献できるよう、これまで以上に質の高い講座を定期的開催し、観光案内人の育成に努めていきます。また、「湯前学」としての確立をめざした地域文化の整理を推進していきます。

※ 湯前学: 湯前学とは、湯前の名称を冠したいわゆる地域学の一つで、歴史文化や産業、自然などを見つめ直し、地域の魅力や可能性を発掘することも意味しています。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|---------------|-----------|
| 着地型観光推進人材育成事業 | 企画観光課・商工会 |

着地型観光は、本町の地域資源を活かした観光手法として、今後大いに期待できるものがあります。この着地型観光を成功させるためには、様々な分野の観光資源を活用した着地型観光を企画立案し、実際に運営できる人材が不可欠です。雇用の場として事業を育てていくことも必要になります。このため、今後、移住者を含め雇用の場として確立できるよう人吉球磨観光地域づくり協議会とも連携しながら、着地型観光を担える人材の育成を推進していきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|-----------|-----------|
| 創業希望者支援事業 | 企画観光課・商工会 |

駅前周辺の賑わいを再興する取り組みとして、本町の特色である食文化の活用や憩いの場所の創出として、カフェ等を駅前周辺に立地しています。本町にある既存のレストランや食関連に関わっている個人、団体と連携した取り組みを検討していくことも必要になってきますが、今後本町に移住しようと考えている方の就労の場としての取り組みも必要になってきます。このため、カフェやレストラン事業等に取り組みたいと考えている方を拡大していくため、町内外の協力を得ながら人材育成を図っていきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|---------------|-----------|
| eコマース推進人材育成事業 | 企画観光課・商工会 |

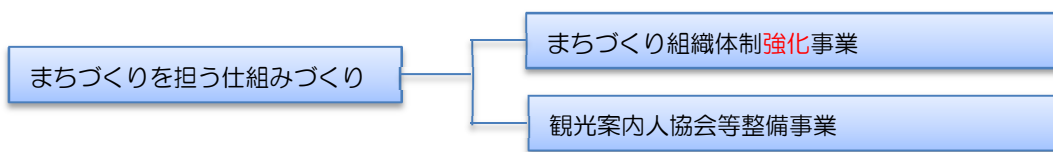
eコマースを実際に運用していくために、eコマースを個々の事業に導入していこうと思う意欲・関心を高めていくとともに、魅力ある商品にしていくためのノウハウや、eコマースそのものに対する技術的知識なども必要となり、事業者が個別に取り組むには様々な課題が生じてきます。このため、商工会等と連携しながら、eコマース事業への参入を視野に入れた講座等を開催し、町全体として取り組みが実現できるよう支援していきます。

第2節 まちづくりを担う仕組みづくり

【戦略ビジョン】まちづくりを担う仕組みづくり

人材育成とともに、各種事業を持続的に展開していくためには、官民一体となって取り組んでいくことが不可欠です。このため、住民、各種団体、行政など各分野の人たちが参加できる新たな組織体制を整備していきます。

施策体系



施策を取り巻く環境

- ◆ 本町の観光振興や物産振興を担っている組織には、商工会、観光物産協会、下村婦人会並びに町役場企画観光課があります。それぞれが国等の補助金の採択を受けながら、地域振興に向けて各種事業を展開しているところです。しかし、町全体としての観光振興やまちづくりの明確なビジョンの中で各種事業が展開されておらず、せっかくの事業もその成果を十分発揮するまでには至っていません。今後は、まちづくりや地域活性化のビジョンを明確化すると同時に町全体で共有化し、より緊密な連携のもと一体となって各種事業を展開していくことが最重要課題といえ、そのための組織体制づくりが早急に必要です。
- ◆ 平成27年度から「観光案内人」の育成講座が開催されるようになり、これまで観光客への案内が不足していたという課題解決に少しずつ動き始めています。しかしながら、まだ観光案内人講座への参加が一部の町民に留まっており、今後の観光振興のためには、多くの町民がその意義や目的を理解し積極的に観光案内人として参加していく意欲を持つていくことが重要です。また、観光案内人による観光客への具体的サービスが展開される今後においては、実際のサービス運用のための仕組みづくりが必要になってきます。

解決すべき課題

◆ まちづくり組織体制の確立

本町の観光振興や物産振興を担っている既存組織の連携強化を図っていくことが不可欠となっている状況の中、人口の少ない本町では限られた人的資源を有効に活用していくことが求められます。そのため、官民一体となった組織体制づくりが必要です。観光案内人組織の設立

平成27年度から観光案内人の育成事業が始まりました。今後、裾野を広げ多くの町民に参加していただき、本町を訪れた方が満足する案内が実現できるよう、組織だった育成が必要になってきます。また、実際の観光案内人を稼働させていく仕組みが必要になってきます。そのための組織体制づくりが早急に求められています。

施策事業と事業主体

| 施策事業名 | 事業主体 |
|---------------|---------------------|
| まちづくり組織体制強化事業 | 企画観光課 観光物産協会・商工会 |

本町の観光物産振興を強力に推進するため、従来の考え方を見直し町全体で観光物産振興に取り組めるよう、その中核組織として、人吉球磨観光地域づくり協議会や町観光物産協会、案内人協会などまちづくり組織の体制強化を推進していきます。まちづくり組織の役割としては、町全体の観光物産振興に関わる企画立案から実際の運営までを担い、今後、様々な観光物産振興に関わる各種事業を展開していく中核組織としていきます。また、各種事業が軌道に乗り始めた時点で、スタッフの拡大を図り、雇用創出につながっていくよう仕組みづくりに努めていきます。

| 施策事業名 | 事業主体 |
|--------------|-------|
| 観光案内人協会等整備事業 | 企画観光課 |

観光案内人の人材育成とともに、今後、裾野を広げ多くの町民に参加していただき本町を訪れた方が満足していただけるような案内が実現できるよう、取り組みを推進していきます。

第7章 事業の年次計画

第1節 事業の年次計画

本戦略に基づく各事業の実施時期は、次のように計画していきます。

【基本目標1】地域資源を活かした賑わいのあるまちづくり

| | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------------------------|-----------------|----|----|----|----|
| 湯前駅前再整備による賑わいのあるまちづくり | | | | | |
| 湯〜とびあ販売拡大事業 | ←→ | | | | |
| スモールハウス群整備事業 | | | ←→ | | |
| 全天候型レールウイング改修整備事業 | | | ←→ | | |
| まんが美術館再整備事業 | | | | ←→ | |
| まんが美術館を核とする賑わいのあるまちづくり | | | | | |
| まんが図書館利用促進事業 | ←→ | | | | |
| まんがカフェ整備事業 | H29 年度事業完了 | | | | |
| まんが美術館活用事業 | ←→ | | | | |
| まんが・アニメグッズ販売促進事業 | ←→ | | | | |
| 郷土文化を核とする賑わいのあるまちづくり | | | | | |
| 郷土文化展示・体験施設活用事業 | 平成 29 年度事業完了 | | | | |
| 食文化を核とする賑わいのあるまちづくり | | | | | |
| レールダイニング促進事業 | | | | ←→ | |
| 駅前カフェ整備・運営推進事業 | レールダイニング促進事業に統合 | | | | |

【基本目標2】暮らしを支える産業と持続可能な雇用を生み出すまちづくり

| | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---------------------|----|----|----|----|----|
| 農林業の高度化・多様化支援 | | | | | |
| 農林業経営高度化促進事業 | ←→ | | | | |
| 農林業就業希望者支援事業 | ←→ | | | | |
| 地域資源を活かした着地型観光産業の推進 | | | | | |
| 歴史文化利活用着地型観光事業 | ←→ | | | | |
| 自然環境利活用着地型観光事業 | ←→ | | | | |
| 農林産物利活用着地型観光事業 | ←→ | | | | |
| 町内周遊観光交通支援事業 | ←→ | | | | |
| 地域資源を活かした物産流通促進事業 | | | | | |
| e-コマース推進事業 | ←→ | | | | |

【基本目標3】若者が暮らしやすいまちづくり

| | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|----------------------|-----------------|----|----|----|----|
| 若者が安心して暮らしていける住まいづくり | | | | | |
| 若者向け単身者住宅建設事業 | R1 年度事業完了 | | | | |
| 子育て世帯向け住宅建設事業 | | | ←→ | | |
| 子どもを安心して生み育てられるまちづくり | | | | | |
| 親子カフェ整備促進事業 | レールダイニング促進事業に統合 | | | | |
| 親子ふれあい環境整備事業 | | | ←→ | | |

【基本目標4】情報が行き交うまちづくり

| | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---------------------|------------------|----|----|----|----|
| 町内への情報発信機能の充実 | | | | | |
| 近隣主要 JR 駅での広報促進事業 | ←→ | | | | |
| 高速道路 IC&PA での広報促進事業 | ←→ | | | | |
| SNS 情報発信機能高度化促進事業 | ←→ | | | | |
| 観光アプリ構築整備事業 | ←→ | | | | |
| プロモーション映像制作整備事業 | ←→ | | | | |
| 町内における情報発信機能の充実 | | | | | |
| 湯前観光案内所整備事業 | H29 年度事業完了 | | | | |
| 駅舎内湯前ギャラリー整備事業 | | | | ←→ | |
| 湯前駅前観光サイネージ整備事業 | | | | ←→ | |
| 町内サイン計画・案内板整備事業 | | | ←→ | | |
| Wi-Fi 無線環境整備事業 | H27 年度以降、必要に応じ設置 | | | | |

【基本目標5】まちづくりを担う人づくり・仕組みづくり

| | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------------------|------------|----|----|----|----|
| まちづくりを担う人づくり | | | | | |
| 地域情報発信人材育成事業 | ←→ | | | | |
| 観光案内ボランティア人材育成事業 | ←→ | | | | |
| 着地型観光推進人材育成事業 | ←→ | | | | |
| 創業希望者支援事業 | ←→ | | | | |
| eコマース推進人材育成事業 | ←→ | | | | |
| まちづくりを担う仕組みづくり | | | | | |
| まちづくり組織体制強化事業 | ←→ | | | | |
| 観光案内人協会等整備事業 | H30 年度事業完了 | | | | |